

京都第二赤十字病院施設整備事業における地盤調査

仕様書

令和 7 年 8 月

目 次

§ 1. 地盤調査・特記仕様書	1
§ 2. 調査内容(表-1)	3
§ 3. 調査予定位置図	5
§ 4. 参考柱状図	6

§ 1. 地盤調査・特記仕様書

1. 調査件名：京都第二赤十字病院施設整備事業に係る地盤調査
2. 調査場所：京都市上京区西洞院通樺木町上る東裏辻町 418 番 1 ほか
3. 調査期間：（協議により決定）
4. 調査位置：付図参照
5. 調査内容：表－1 参照
6. 成果品：土質調査→報告書 5 部（PDF データ共）、土質標本 1 組
7. 考察・検討を要する事項
 - 1) 地形、地質と地層構成
 - 2) 各試験結果の考察
 - 3) 基礎工の考察並びに支持力の検討
 - 4) 地下水位の考察
 - 5) 液状化有無の検討
8. 計画建物の構造規模(参考)
 - ・構造種別：鉄骨造、規模：地上 7 階、地下 1 階
 - 基礎底　　：約 GL－7.0m
9. その他
 - (1) 調査位置および調査日程等について、事前に説明し施主の承諾を得て調査に着手すること。
 - (2) 調査及び試験は、地質調査請負者の責任施工を原則とする。
 - (3) 土質調査は、原則として「地質調査に関する知識及び技術の審査・証明事業認定規定(昭和 59 年 3 月 22 日建設省告示第 654 号)」に基づき認定された地質調査技士があたるものとする。
 - (4) 地質調査請負者の見識により、本仕様書記載以外に望ましいと判断される地盤調査等の項目がある場合には、事前に設計者に提案し、設計者の承諾を受け、それを最終調査内容とすることができる。
 - (5) ボーリング調査実施中並び終了後の公害問題の調整、後片付け清掃等は、設計者の指示に従い、地質調査請負者の責任において行う。
 - (6) 調査・試験の途中で、下記のような異常事態が発生した時は、設計者に報告し、その指示を受ける。
 - ・想定地盤と著しく異なったり、掘削が困難な場合
 - ・予定深度に達しても数 m 以上にわたる想定支持地盤が確認できない場合
 - ・予定深度に達していないが、数 m 以上にわたる支持地盤が確認できた場合
 - (7) 調査の進捗は、仮柱状図等により、適宜中間報告すること。
 - (8) 調査完了時、数量に変更が生じた場合は、原則として見積契約単価により精算する。但し、予定深度が増減深さ 50cm 以下のものに対しては、見積金額の増減は行わない。
 - (9) ベンチマークは公共水準点とし、協議により決定する。標高は TP 表示を原則とする。

(10) 工事用水は下記による。(協議により決定)

◎支給する ・支給しない

(11) 立会い検査

・ある ◎なし

(12) 係員連絡先 : 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上る春帯町 355 番地の 5

施設名 : 京都第二赤十字病院

担当者 : 事務部 新病院整備推進課 梅垣 塩山 大澤

T E L : 075-231-5171

E-mail : shinbyouin@kyoto2.jrc.or.jp

【業務委託先】

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-25-2

株式会社 横河建築設計事務所

担当者 : 湯浅 暁 TEL:070-5072-1829

担当者 : 澤田 智史 TEL:070-6577-6247

§ 2. 調査内容(地質調査)

本調査の調査内容を以下の表-1 に示す。

表－１．調査内容一覧表

調査の分類	適 用	調査の種類	特 記 事 項	
ボーリング	●	ロータリーボーリング (標準貫入試験併行)	本孔 15m×4ヶ所、20m×1ヶ所 別孔 20m ⇒計100m	
	○	試験掘り		
サウンディング	●	標準貫入試験	1m毎に行う	
	○	サウンディング試験	m×ヶ所 m×ヶ所	・スウェーデン式 ・オランダ式
サンプリング	●	乱さない試料の採取	数量:1試料	トリプル
	●	乱した試料の採取	地質毎に採取(標準貫入試験時) 簡易粒度試験(各孔×10地点)	
土質試験	○	物理的性質試験	土粒子の密度、含水比、粒度 液性・塑性限界、湿潤密度	
	●	力学的性質試験	三軸圧縮・圧密試験×1試料	
載荷試験	○	平板載荷試験	数量:ヶ所 予定地耐力度(長期): kN/m ² 深さ、土質: m	
	●	孔内水平載荷試験	数量:1点 × 1ヶ所 位置:Bor.No2 深さ:約GL-3m 土質:埋土	
原位置試験	○	設計CBR試験	敷地内 1ヶ所(表土)	
	●	現場透水試験	数量:1ヶ所 位置:代表孔 深さ:約GL-6m(想定) 土質:玉石混じり砂層	

注 1. ●印(摘要欄)、適用する。

注 2. 特記欄の深さ、土質は予定であり、調査実施の際、係員との打ち合わせにより変更することがある。

注 3. 特記無き事項は、敷地調査共通仕様書(国営整第 183 号)による。

注 4. 各孔の調査終了は、原則として N 値 50 回(上限 60 回)以上の層を 5m 以上確認し、

地層が連続すると判断された場合とする。 但し支持層が連続することが明確な場合、係員と協議の上調査を終了できる。

本計画においては、計画深度までとする。

注5. 孔内に地下水位が認められるまでは原則として無水掘りとする

注6. 土質サンプルの採取は、1 本目の調査孔で地層構成を確認し、係員と調整の上、2 本目の調査孔または別孔により行う。

※乱さない試料の採取は、GL-10m以深にまとまった層厚の粘性土層が確認された場合に実施とする。